

令和元年度岩手県林業技術センター試験研究評価実施結果

1 目的

(1) 試験研究の効果的・効率的な推進を図るため試験研究評価を実施する。

試験研究課題の選定から試験研究終了後の成果の普及に至るプロセスに関し、適切な評価を実施することにより、効果的・効率的な試験研究の推進を図る。

(2) 評価等の客観性・透明性を確保するため、県の組織に属さない外部有識者等を評価委員とする外部評価を実施する。

2 外部評価委員会の開催日時等

(1) 日時 令和元年9月19日(木) 13:30~16:30

(2) 場所 岩手県林業技術センター 講義室

3 評価委員

岩手県林業技術センター所長が選任、委嘱する。(任期：平成29~令和元年度)

所 属 等	氏 名
岩手県立大学総合政策学部教授	渋谷 晃太郎
国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所 東北支所長	梶本 卓也
国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター 東北育種場長	田中 直哉
奥州地方森林組合代表理事組合長	小原 剛一郎
岩手県木材青壮年協議会会長	阿部 高志
岩手建築士会	上田 吹黄

4 研究課題に対する総括評価結果

課 題 名		総括評価 (※)	総括評価に関する主なコメント
燃料用木材の利用技術の開発	終了	A : 3 B : 3 C : 0	・バイオマス発電工場との連携実施は大変良い。 ・改良を進めてマニュアルの作成に活かしてほしい。 ・簡便な推定手法で実用的と評価できる。
林地環境改善によるシロ活性化技術開発	終了	A : 1 B : 5 C : 0	・国際誌への成果公表は、非常に高く評価できる。 ・まだ、実用段階には至っていない。 ・マツタケ人工栽培の確立は、発展性が高い。
広葉樹資源高付加価値化に向けた技術開発	新規	A : 4 B : 2 C : 0	・県内に豊富な広葉樹資源活用のために重要な研究 ・高付加価値化に向けた技術開発は重要で優先的に取り組む課題
広葉樹林の収益性向上を目指した造成技術の開発	新規	A : 2 B : 3 C : 1	・関連資料の活用を事前に十分検討してほしい。 ・広葉樹造林技術の確立は潜在的ニーズが高い。 ・広葉樹資源の有効活用は地域振興に大きく貢献する。
原木シイタケの高収益栽培技術の開発	新規	A : 3 B : 3 C : 0	・寒冷地に適したシイタケ栽培技術の確立は緊急性が高い。 ・原木シイタケ生産現場の問題解決に大きく寄与する。
原木シイタケ安全安心栽培技術の開発	新規	A : 6 B : 0 C : 0	・シイタケ原木の安全性の確立は重要かつ緊急 ・他機関の先行事例を調査すべき ・重要な課題であり、継続的に取り組む必要がある。

※ 総括評価 【終了課題】 A : 目的を達成
B : 目的をほぼ達成
C : 目的を未達成

【新規課題】 A : 優先的に実施
B : 早期に実施
C : 計画見直し等